

2016年度 第45回 いしかわインテリアデザイン大賞 「大賞」

物件名	柳宗理記念デザイン研究所ウィンドウ ディスプレイ		
	所在地	金沢市	
設計者	新井 麻帆子 金沢美術工芸大学環境デザイン専攻3年		
	TEL		URL



別添

コンセプト

柳宗理がデザインしたバーコード柄ファブリックの線に強弱をつけ、少しずつずらすことでバーコードのような新たな形が見えるデザインに魅力を感じ、バーコード柄ファブリックと柳宗理の代表作であるバタフライストールをモチーフに空間を構成しました。線を少しずつずらすことでバタフライストールのシルエットが浮かび上がるウィンドウディスプレイです。

解説

バタフライストールのシルエット部分がレイヤーになっており、正面から見ることでバタフライストールの形が浮かび上がります。模型やパースでの試作を繰り返し、ウィンドウディスプレイの見え方がよりよく見えるように改善していきました。

コメント

今回制作するにあたり、本当にたくさんの方々にご協力していただき、お世話になりました。柳宗理さんの「デザインは一人でするものではない」という言葉を身にしみて実感しました。普段の大学ではできないような経験をし、いろいろなことを学ぶことができました。今回学んだことを、これからの制作に生かしていきたいと思います。

2016年度 第45回 いしかわインテリアデザイン大賞 「石川県知事賞」

物件名	尾山神社 授与所		
	所在地	金沢市	
設計者	浦淳・盛下敏成(株) 浦建築研究所		
	TEL		URL



別添

本建物は、お守り、お札、御朱印等、尾山神社由来の商品を販売する施設です。

「尾山神社の新しい魅力をつくる」 のびやかに広がる境内の空間、唯一無二の折衷様式が表れる神門、前田加賀百万石の威光を放つ拝殿、本殿、雅楽器を模した優美な佇まいの神苑、本殿周囲のレンガ塀等、尾山神社でしか見ることができない金沢の歴史文化を代表する景観を維持しながら、その魅力を新しい視点から体感する場所をつくります。授与所はガラスの透明な佇まいとし視線が抜けるようにすることで、尾山神社の魅力的な景観を維持します。授与所の室内からは全方位に境内、神苑を見渡すことができ、室内から景色を楽しむことができる尾山神社の新しい魅力となります。

「尾山神社の魅力をつなぐように人の流れを誘導する建物の配置と形状」 神門をくぐり、拝殿でお参りを済ませた後、シンボルツリーの大きな松を回り込んで神苑を散策する中で授与所に立ち寄ることができる流れをつくるように施設を配置しています。また将来復元が予定される鼠多門・橋により長町武家屋敷から、尾山神社、金沢城址公園、兼六園までを一筋につなぐルートがより一層明確になるなかで、神門と鼠多門・橋をつなぐ人の流れの受けることを意識した配置となっています。建物の形状は松の木に寄り添うような多角形状とし、人の流れを緩やかに誘導します。

「正月の繁忙期には店舗の中と外が反転する機能」 通常営業時には参拝客を店舗内に誘導し、店舗内カウンターでゆっくりとお守り、お札を選んでもらうことができます。正月三が日を含む繁忙期には店舗の神苑側のカウンターを広く開け放ち、奥行き深い庇下の空間を接客空間とし、店舗内はストック品の一時置き場とします。カウンターは売り子さんが最大 10 人並んで接客対応ができるように、2間の間口が開放できるようにしています。

「尾山神社の先進性と独自性を継承するガラスのショーケース」 神門の多様な折衷様式、ステンドグラス、レンガ塀などにみられる尾山神社の先進性と独自性を継承します。四方に庇を伸ばし人を迎え入れる和風の佇まいとガラスの囲いで、周囲の景観に溶け込みながら尾山神社の先進的な精神を継承します。また内装には白玉砂利の洗い出しと白木を用い、ジュエリーショップのように願いがこもったお守りを丁寧に美しくディスプレイする空間としています。尾山神社の格式を尊重しながら現代の女性にアピールできるような清潔で明るい空間づくりをイメージしています。

「尾山神社界隈の魅力や歴史を音と映像で発信するサイネージ」 店舗内には映像作家モリ川ヒロト氏の映像作品「金澤四季夢譚」を2面のデジタルサイネージで展示しています。四季折々の風景や歴史文化、周辺地区のインフォメーション等、地元住民と観光客に尾山神社と金沢の魅力を広く発信します。

2016年度 第45回 いしかわインテリアデザイン大賞 「金沢市長賞」

物件名	薪の音 金澤		
	所在地	金沢市	
設計者	建築設計・外観デザイン谷重義行建築像景、内装デザイン (有)エッグ上宮唯 谷重義行建築像景、(有)エッグ		
	TEL		URL



別添

□ 薪の音 金澤

建築設計・外観デザインは、谷重義行建築像景が行った。

外観には細い格子を用いた。

これは昭和の中頃まで、この場所にあった木造建築を再現したもの。

内装デザインは、(有)エッグ 上宮が行った。

金沢のもてなし空間をイメージし斬新な和の宿を目指した。

ゲストルームは2部屋あり、どちらもゆったりとした広いスペースで開放感がある。

「HIGASHI」の部屋のベットルームには朝陽が差し込む間取りとし、

洗練された大人の空間となっている。

「NISHI」の部屋は木の質感やぬくもりを感じる事のできる落ち着いた空間となっている。